□れんさい随想〈2〉

感激の金メダル

古林喜楽
〈広島商科大学学長〉

九月八日、ミュンヘンから久びさにわが家へ帰ってみたら、祝電やら祝い状が、山とつまれている。新聞の切りぬきが、方々から送られてきている。家内がひどい目にあったという。引っき切りなしにかかってくる電話で、息つく間もなかったという。

八月三十日、一〇〇メートルの平泳で、わが大学の田口君が優勝し、プールからあがってきた田口君と私が握手をし、大きな日の丸をふったのが、テレビに出たからしいのである。小旗の日の丸をふるものは、ほかにもあった。しかし私ほど大きな国旗をもってきていたものは、外国人にもなかった。それがカメラマンの目にとまったのであろう。もちろん私は、故意にこんなことをやったのでは更々ない。ただ昔のように荒物屋で、簡単に日の丸が手に入らないので、わが家で大正以来愛用していた、色あせた日の丸を探り出して、携えていっただけのことなのである。家内はこんな汚れたものをといったが、「色あせた桜ただ一つ」という歌もあるではないかとて、トランクにつめこんだ。

さてプールに入ってみてたまげた。恐ろしくデカイのである。前の方のスタンドの席から、うしろの席をみあげると、顔もろくにわからないし、手をふってもわからない。はるかかなたの天上裏からのぞいているように見える。小生はこれでも声の大きい方なのであるが、「田口頑張れ」とどなっても、蚊のなくような声にちってしまう。これではならじと、ふと横の方をみると、下段への通路が、あたりまえのことながら、ガラ空きである。コレコレ！とばかりに、本番の直前、タタタタッと通路をかけ下りて、最前列のところでし

▶ 新聞紙上をにぎわした田口選手と日の丸を手にした古林喜楽学長

やがんだ。やがて音楽の吹奏とともに、選手が入ってくる。田口いづくぞとさがしているうちに、顔がほてってきて、胸がドキドキ鼓動を打ちだした。本人より私の方が、あがってしまったらしい。

大学で田口君を送りだすとき、はなむけの言葉として、勝敗を忘れよ、日本を忘れよ、広島商科大学を忘れよ、ただひたすら、世界制覇にむかって一路まい進ばく進せよ、といった私の方が、このていたらくであった。

スタート台へ来たとき、彼はただ一人、うしろの飛び込み用プールへザンブととび込んだ。そしていよいよというとき、フライイングするものがあって、やり直しとなったが、そのときもまたまた彼はうしろのプールへとびこんだ。あんなことをしていいのだろうかといぶかったが、あとで考えてみると、彼もあがり気味の身体をひやしていたのであろう。

ピストルでないブザーの出発合図では、どうかと気にかかっていたが、彼は見事にとびこんだ。よし！　と思ったが一向にリードしそうもない。ハラハラしてみつめていると、五〇メートルのターンでぬかれている。しばし私のいきがとまった。田口頑張れ！　あと三〇メートル、少し出てきた、それ頑張れ！　グングン出てきた、やったぞと思った途端に、掲示板に赤々と、一着田口、タイム一分四秒九、世界新記録と出たのである。そのときの私の感激はシエクスピア、ゲーテといえどもこれを表現することはできないであろう。

競技のすんだあと、同志の面々と勇みに勇んだ浮き足で、ホーフブロイ・ハウスを追いこして、今世界一のビア・ホールになっているマテーザーへ乗りこみ、大ジョッキで祝盃をあげたときのビールのうまかったこと！今思いおこしても胸がゾクゾクする。

「先生と最もなじみの深いドイツで、先生のお好きなビールの本場ミュンヘンで、しかも三度のめしより好きだといわれていた水泳で、先生の大学の学生が、金メダルを獲得されたのですから、さぞ本望だったでしょう」という祝い状が教え子からとどいた。

心労の多い大学の管理職で、三時間半かかる広島通いの折ふしには、何の因果で、私はこの年になってまで、苦労しなければならないのかと、沈んだ気持ちになったりしたこともあったが、あの輝かしい八月三十日には、一瞬にして何もかもすべてが吹きとんでしまった。ながらえば憂しとみしこの世でも、かくも素晴しく嬉しい日にあえることもあるのだなアと、つくづく思いをあらたにしたのです。

水泳王国日本が凋落しはじめてから幾年ぞ！男子は十六年ぶり、女子は三十六年ぶりに、金メダルをせしめたのである。水泳王国日本の、まさに復活の年であり、それを成しとげてくれたのが、わが大学の田口君であるから、これを喜ばずして何をか喜ばんやである。

古林　喜楽さん

★インタビュー

神戸で唄う

菅原洋一さんをたずねて

ファンタスティックな街

―― 今度のスケジュールは？

菅原 そごうのファッションショウと、キッチンパパという僕が司会をしている料理番組のロケーションで。この番組は全国各地を回るのですが、今度初めて神戸ということになって、元町の〝蛸の壺〟のタコメシを紹介するわけです。港、六甲の山々、元町通りのセンスあるところを追って最後に食べ物。この辺の食べ物は関東に比べて抜群に美味しいですし、贅沢なんです。それでいろんなものがあるけれど、へえ、こんなもの？って喜んでもらうために今回はタコ料理なんです。

―― 菅原さんは独特の身近な雰囲気をお持ちですね。

菅原 そうですか。非常に感じ屋でして、初めて会った人でもつい声を掛けたくなるんです（笑）

―― 神戸はいかがですか？思い出とか。

菅原 僕もこういう仕事をしていると時間や労力の関係上、仕事が上手くはかどらないので東京にいるのですが仕事も一段落着いてからこちらに帰りたいですね。神戸に住みたいです。僕は高校卒業まで、加古川にいましたから。子供の頃はこちらの親戚の家に留まって、夏休みは鷹取山に朝登ったり、夜は、当時一番賑やかだった新開地に連れていってもらって、レストランとか喫茶店に入って御馳走を食べて楽しくて仕方がなかったという思い出もありますね。もう何十年も前のことですが。また神戸というと、海も山も近いし、いいお店も美味しいものもたくさんあるし美人が多いですよ！神戸の人はマヒして分らないでしょうが、私達は全国を歩いているので感じますね。はっ！とする度合いが多いわけです。勿論どこへ行っても美人にお目にかかるけれど、一日に一度はっ！とするのでなくて、神戸にいると、はっ！はっ！はっ！……と（笑）。ファンタスティックな街というのか一人でぶらぶらするのもいいけれど、二人連れで、仲のいいお友達と来るところですね。非常にムードがある。高校時代だから二十幾年も前のことですが、神戸に来て今の言葉でいうウィンドウショッピングを楽しみましたね。ヨーロッパへ行ってこの言葉をやっと覚えたんですが、その頃からそういう雰囲気があったのだから、センスのある店がいかに多いかってことですね。

―― 歌手になろうと思われたのはいつ頃からですか。

菅原 歌は国立音楽大学に入った頃からで、それまでも音楽が好きだったし、そういうステージに出れたらいいだろうなあと思っても、歌手にとは考えなかったですねタンゴが好きで勉強とは別にレコードを聞いたり、勉強って程でもないけれど、しましたね。それからですね。

―― 歌手生活を通じて、またこれから歌いたいと思われる歌は？この曲はヒットするなんて感じられますか。

菅原 自分の惚れ込んだ曲はある程度ヒットします。神戸の歌はヒットしないというジンクスがありますが、メロディーといい詩があれば必ずヒットします。原石がよければ磨けば光ってすばらしいものになります。作品の問題ですね。いいのがあれば歌いたいですね神戸の歌を

それに、外国の歌シャンソンとか、アメリカのスタンダードナンバーのような、非常に人生を歌った曲、恋は恋でも上面だけの歌でなく聞いてよかったというドラマのある歌をやはり歌いたいですね。日本語が曲に乗りにくいのは事実ですが、日本語のなかにも短くて非常に深い味わいのある言葉で、多くのことを考えさせるきれいな言葉がある筈なんです。そういうのを一度見直して、歌を作って欲しいと思います。今度のリサイタルもそのことを発展させて、シャンソンとか、スタンダードナンバーといわれる、皆がよく知っていて聞けば分るし、自分も前から親しみ口づさんでいたというものは日本では何に当たるだろうか、日本でしか出せない味とはと考えて構成しました。

―― 神戸のアンコールリサイタルなどで、神戸で作られた歌が歌われるようだと素敵ですね。世界で好きな人とか、目指しておられる人はいらっしゃいますか。

菅原 やはり歌の売れている人は上手いですね。フランクシナトラ、トムジョーンズ、アンディウィリアムスとかは、シャンソンでもカンツォーネでも全部自分のものなんですね。僕はタンゴが好きで歌っていましたが、歌手ではなくて、タンゴ歌手でしかないんですね。菅原洋一という歌手になりたいし、それを目指しているわけなんです。これでそうなんだと自分で納得がいかないで終ってしまうこともあるだろうけれど、その評価というのは、聞いて下さる皆様がして下さるものですからね。厳しいですね。一生懸命勉強しないと……。一般の人に本当に分ってもらえないとやはり本物じゃあないですからね。頑張ります！

いつもにこやかな菅原洋一さん
〈ギリシャピレッジの前で〉

・十月二十六日渋谷公会堂でリサイタルを行なう彼は、日本の美をそのなかに織り込んだ。一部は彼の加古川、神戸での幼年時代を〝赤とんぼ〟〝夕焼けこやけ〟などの彼のいう日本のスタンダードナンバーで〝第二部は彼の持ち味を心ゆくまで歌いまくる予定。出来れば神戸でアンコールリサイタルをして、神戸の曲も歌えたらと例の人なつっこい顔をほころばせて語ってくれる。

・〝蛸の壺〟が紹介される「キッチンパパ」の放映は十月二十八日午前九時半より。

きものと細貨

おんがら屋

神戸

西　店/三宮センター街・電話　331－8836(代)
東　店/三宮センター街・電話　331－0629
三宮店/さんちかタウン・電話　391－4303

東京

銀座コア店／4階着物コア・電話573－5298（代）
渋谷東急店／5階和装名家街・電話462－3409（直）
日本橋東急店／4階和装名家街・電話211－0511（代）
（内線294）
池袋パルコ店／4階着物小路・電話987－0561（直）

呉神染織 みよしや

神戸店　大　丸　前
電話神戸（321）三四四八番（代）
（331）三三八八番（代）
大阪店　阪神百貨店三階
電話　大阪（345）九五八四番
姫路店　やまとやしき百貨店四階
電話　姫路㉓一二二一番

□神戸っ子対談

神戸が育てた映画人生

淀川長治〈映画評論家〉
青木　啓〈ラジオ関西社長〉

★神戸の蟬はセミセミセミ、東京はカナカナカナと鳴く

淀川　青木さんはずっと神戸ですか？

青木　昭和二十六年の暮れにラジオ関西、当時のラジオ神戸が出来るということで来ましてね。僕が新聞記者時代に満州で東遷がありまして、当時満州で放送部というのを作って我々がニュースを書いて、アナウンサー側が読むというようなことを、亡くなった田中寛次前社長らと国通社というところでやっていた訳です。神戸新聞の学芸部あたりで、二・三ケ月いましたが民間放送を作る時こちらに来て、それからずっとです。

淀川　私はラジオ関西がどこにあるかも知らなかった呑気者で。東京に移って三十年だいたい関西でも三十年で今、六十三なんですけれど、ラジオ関西のお招きを受けて行ってみたら懐かしいところなんですよ。私の父が、あの辺の衣掛町に家を六軒持っていたので毎月家賃を取りに行っていたんです。今は表は電車通りで、アカシヤという喫茶店とそれから並んで六軒、そんなに古くないきれいな路地でした。そんなことで、ラジオ関西に行ってあの昔の古い建物を見るとホンマに神戸へ来たような気がしました。こんないいところにあって、海が見えて、こんなところに勤めている人は幸せやなあと思いました。衣掛町を知っていますからね、縁がありましたよ。

青木　前の建物はとっても評判よかったですよ。

淀川　僕は、ちょっとギッシ　ギッシする板の音が好きでね。内に入りますと、大きな瓶に金魚がいて水草が浮いているんですね。蟬がセミセミセミセミセミって鳴いているんですね（笑）東京の蟬はあんな鳴き方しないですね。ああ、神戸に帰ってきたなあと思ったでっせ！東京の蟬はカナカナって鳴く、東京であんなことというと、あほらしいって笑うんですよ。神戸でいいなあと思うのはまたあの辺の海ね。小学校の頃夏はずっと行っていましたね。柳原に住んでいましてね、兵庫駅から須磨駅まで汽車で行くんですが、柳原にある石原という薬屋さんで、今でいうと非常に不衛生ですけれどキルクの蓋の付いた瓶にエッセンスみたいなのが入っているのを買いますねん。それをなめているうちに、須磨に来て、ちょうどなくなった空瓶をガチャン！と鉄橋の上から落とすのが好きでね。毎日のように栄浜の方に行きました。

青木　村雨神社が離宮道あたりにありますね。

淀川　そういう村雨神社とかという奥ゆかしい時代は知らないけれど、僕が中学一年生の頃海岸に、よしずの茶屋なんかがあってね、青木さんは東京だからご存知ないかも知れないけれど、大きな鉄の釜で薪を入れて、飴をぐらぐら焚いているのですね。飴湯専門でお湯呑みでふうふうと口で吹いて飲むのです。それから僕らは、赤ふんどし白ふんどしに分けられて泳ぐでしょう。泳ぐと飛んで出て、飴湯を買うのが嬉しくて、楽しくて仕方がなかったですね。その飴湯の匂いで蜂が砂浜にいっぱいき

青木　啓さん

もらいました。今でも行くと、四つ五つに分けられて高級住宅になっていますけれど、その場所はあります。神戸の街は私の人生で非常に勉強になったところですわ。

★浮世絵のようだった柳原から鷹取山の眺め

青木　神戸は三十年ですか

淀川　柳原で生まれて、会下山へ変りまして熊内に変りまして、それで三十年。ちょうどその時、僕の勤めていた映画会社の本店が東京にありまして、東京に来いというんです。僕神戸が好きでね、東京へ行くの嫌いで頑張りましたが、どうしてもというので変ったのが三十の時です。

青木　映画会社というのは映画の出版会社ですか。

淀川　輸入で、パラマウント、ユニバーサル、ユナイテッドアーティストというのがありまして、東京が本店で僕は大阪の支店に入って神戸から堂島の方へ通っていたんです。神戸が好きでね、東京の人には悪いけれど神戸に比べると、とても東京なんか。でも、当時そんなことっておれなくて東京に移ったのが三十の時ですね。

青木　東京はどちらへいらっしゃったんですか。

淀川　私は目黒に両親を呼んで住んでみたかったのですが、私の勤めていた映画の友の社長が、今のタバコのセブンスター位の値段で鶴見という山の上に土地を買ったんです。そして買って忘れていたんです。それでもったいないというので、テニスコートを作って社員に行くようにいったんですが、晩遅くまで映画を見て、朝寝坊するような人ばかりで、そんな心掛けのいい人なんかいませ

ているんですが、それも構わないで、飲んでいるとカラシを入れてくれますね。その飴湯を飲むために行くという懐かしい時代！今はもう変りましたね！それから、私が少し上級生になった頃、関守町に森本清さんという弁護士の方がいらっしゃって、その人に随分勉強させてもらったですね。レンブラントをちょっと知りたいというと五冊位貸してくれるんですね。鶴屋南北を読みたいんですがというと大きな書庫から二十冊位貸して下さるんです。本当に随分勉強させてもらいました。須磨でもう一つ思い出しましたが、関口君というのがいまして、それが家に遊びに来いというんです。それでまた、庭で遊ぶというので、ママごとでもするのかあほらしいと思ったけれど月見山の離宮の直ぐ下にある家に行ったんです。すごい家でね。今で言ったらマンハッタンのサブリナの別荘みたいで、庭というと須磨寺の池みたいなのがあって、四十分、五十分では歩けませんねん。池には屋形船があってね。そこで贅沢三昧、金持ちのムードを教えて

ん。草ぼうぼうで、門番の掘っ建て小屋が一軒しかないそこに、社長が家を建ててやるというんです。友達は気違いでなかったらそんなとこから東京に通わないといったんですけれど、そこに三間半程の家を建ててもらったの。そしたら社長は「その家やるわ」って言ったのね（笑）。私、今もらったら一生この社長から離れられへん損やと思ったね。今やったら得やけど。それで家賃を払って、それも少しだけ払って（笑）。そこで、飲まず食わず頑張って今の家を建てましたけれど。とうとう鶴見から離れられなくなって…。変な話になったけれど。

青木　青木さんはお生れは？

淀川　私は生れが深川なんです。小学一年の頃に、三田に引っ越したんですね。典型的な下町でしたから、三田へ行くと駄菓子屋なんか無いと聞かされていましたが、駄菓子屋はありましたが、上品なところでした。深川から三田へ変わると随分違うでしょうね。雰囲気が三田に古い女子学園がありますね。フレンド学園ですか、慶応の裏の方。あそこら辺はいいですね。向うの方に海が見えて。深川は八つ位までですか？

青木　そうですね。ちょうど来た年が震災の年ですから十歳の時ですね。深川にいましたら、きっと震災の時の大惨事に会っていたでしょうね。その時に引っこしたから運が良かったんですね。でも、真赤に火が燃えていて、地面に寝かされていた僕はおしっこをしたのを覚えています。三日三晩火が燃えていました。

淀川　僕はね、柳原にいてお昼から映画を見に行こうと思って、姉と映画の話をしていた時で、電灯が揺れましたね。どんどん号外が来て大変でした。当時の深川は下町ですか。深川の羽織芸者って何ですか。

青木　神田の羽織芸者でしょう、羽織を着ていますよ。

淀川　やはり、粋という意味ですか。

青木　鉄火ですね。お行儀のいいなよなよのおしゃれじゃあなくて、いきなりパッパッと来る訳ですね。

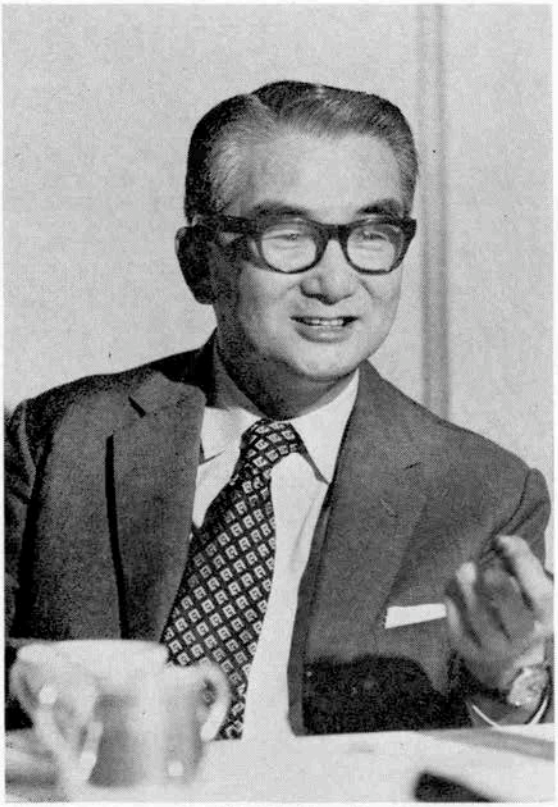
淀川　ああ、そうですか。だいぶん前に、深川で鰻を食べておいしいなあと思いましたが。

青木　僕の小さい頃の思い出はドジョウですね。

淀川　ドジョウとか鰻がいいですね。

青木　時々食べに行きますが、それも庶民的でそば屋の台で、ねぎの刻んだのなんかをザット入れてね。

淀川　このあいだ深川を通りましたが下町の気風があるんですね。福原は今頃はすっかり変りましたね。昔は柳原芸者も良かった。柳原というと、海から鷹取山が一本通りで、浮世絵みた



淀川長治さん

いなところだったですね。夕方になると門灯がつくんですね。ズウーッと。そうすると、兵庫の港から向うを見るとちょうど富士山みたいにあるんです。鷹取山が本当に浮世絵みたいで、鷹取山の晴れている日は晴れ、曇っていると曇りとなかなか情緒のあるところでした。ところがだんだん中心が三宮に移ってきましたね。大正五年ごろ新開地の公園で友進会を催して、都おどりみたいなのがあって、その時十二段返しみたいに景色が次々変わるんです。きれいですね。子供ながらなんと日本人はショウ精神があるんだろうと思いました。六つか七つの頃ですね。赤いタスキの芸者がぼんぼんどうぞ（笑）というそんな、懐かしい時代もありましたね。それから、元町、トアロードと、だんだん中学に入ってくると気分が変ってきて西洋ぶりたくってね。青木さんは新開地の方へはお行きにならないでしょう。

青木　神戸新聞社が新開地のガスビルの前でしたよ。

★学校教育はぜんぶ新開地です

淀川　私は大正六年から十四年頃が新開地ですね。学校教育のようなものを全部新開地で習いましたね。だからあの頃の新開地は懐かしいものでね。聚楽館は、昔、帝劇みたいで本当にきれいなところでした。内に入ると、ロビーの外には砂利を敷いて小さな噴水や、お稲荷さんがあって、そこで、サイダーやアイスクリームを食べる訳です。そこに、アンナ・パブロアからデニション舞踊団などの一流の人が来ましたからね、当時、そこでずいぶん舞台の勉強をしました。

青木　先生が一番最初にごらんになった映画は？

淀川　最初の西洋映画は、見たのと物心着いたのとは開きがありますが、見たのは赤ん坊の頃で、ちらちらするのが好きで好きで。ところが幼稚園に入った頃に送り帰りしてくれた爺さんに、活動写真館の看板を見に行きたい見に行きたいというんです。仕方がないので最初のうちは看板だけ見に行ったんですが、しまいには、内に入りたい入りたいといって……。一つだけといって入ったんですが、その爺さんが好きになってしまって毎日、映画館へ通って連れていってくれたのが物心着きだした大正五年の連続活動劇の頃だから、七つか八つの頃ですね。

青木　「ハリケーンハッチ」の頃ですか。「ミリアムスター」の頃ですか、オートバイが好きでよく覚えています

淀川　あなた、なかなかスポーツマンでしたなあ。私の場合、「パールホワイト」だけれど大正八年、私が十歳の時、はじめて分った。それまでは連続活劇のスーザーの行進、曲なんかは、ただただ楽しかったけれど、十歳の時「WOMAN」というのを見ていて、ふーんと分って来て、あなたのおっしゃる初対面はそれからですね。十歳で、どういうわけかおませでしたね（笑）。文学に負けないと思いましたね。もう一つ「赤輪」というのも悪心が起こる女の手の甲に赤い輪が出来るんです。その赤い輪がだんだん鮮やかに出るんです。こんなのは舞台でも、文章で書いても、こんな感覚は出ないと思いました。キザなようだけれど、これは第七芸術に入るなあと思いました。女にしろ、バレーにしろ、詩にしろ、絵画にしろ、文学にしろ、しかも、映画は大学の先生でも、八百屋のにいちゃんでも一緒に見て楽しめる。文化の頭脳の共産主義と思って嬉しかったですね。

青木　「WOMAN」ってそんなに素晴しかったですか。

淀川　外国では映画の歴史に残っていて、モーリス・ターナーというフランスの監督でしたが見ていない人が多いですね。十歳でもこれは女のことだとは分っていました。私がびっくり仰天したのは、タイトルも出ないで「そも女とはいかなるものぞ」と学者が語るんです。面白いなあと思っていると、パッパッパッと映像が移って、いろんな種類の女が出てきて、「けれど女とは何でしょう」面白くて、なんと面白いんだろうと思いましたね。それに、イギリスの漁師の話なんかも、文学でも、これだけスマートできれいに語ってくれないと思ってね。はっと思ってこれに取りつかれたのが、もとのもと（笑）。そして、映

画に取り付かれたのが新開地、神戸、キネラマクラブ…

青木　僕の初めて見たのは、「ハリケーンハッチ」。映画のストーリーなどに気付き初めたのは「国民の創世」や「冬来たりなば」「麦秋」…。丁度、私が早大に入った頃トーキーで「モロッコ」とか「パリの屋根の下」がほとんど同時に入って来ましてね。その頃は映画青年でした。

淀川　そうですか。トーキーは「モロッコ」の二年前からあったんですが、はじめてこの映画で字が入ったのね「パリの屋根の下」は、はじめてのフランスのトーキーだったのね。その当時二年間字を入れるのに気付かなかったんです。よその国は、はじめから声優だったんです。だから、アメリカで映画を作ると、フランスへ行くとフランス語、イタリアへ行くとイタリア語という風だったから、彼らはゲーリークーパーの声など知らなかったんです。ところが、日本でそれをやるとお客さんが怒ったんです。字を入れることも分らなかったから映しっぱなしで、そのセリフの間に、弁士が話すのだけれど分らなくってね。前にも話したことがあるんですが、下町ものやギャングものが来ますね。もう咳呵を切る言葉でべらべら喋るし、パンパン打ち合うしで、弁士は話しているうちに卒倒してしまう（笑）ということもあって、苦しみの後に「モロッコ」で字が入りましてね。

★一度だけ浮気をしました

青木　先生は一途の人生ですね。

淀川　私はひつこい質で、これと惚れこんだらとことんいかなくては気の済まない性格ですね。父も母も身内というと大事にしなくては気が済まない。生きている限りは磨かなくては、大事にしなくては嫌なんです。映画が好きだと、大事に大事に可愛がらないと尊敬しないと気がすまない性格ですからね。映画は鏡みたいで、世間も私自身も充分自己反省できるのね。人間とは何だろうとね。神戸の人間は片意地なんですね。東京の人と違って品が悪いのね（笑）。つまり、東京の人は相手を大事にするけれど、神戸から東京などに行くとナニクソという気になるのね。だから東京弁を勉強しなかったし、関西弁を直そうとは思わなかった。神戸を捨てることはない、神戸から逃げることはないと思いましたね。そういう訳ですから、これで身内を可愛いがり、何もかも可愛いがり映画の友に入っても、ユナイト映画に入っても十何年は動かない。入ったら最後なんです。いやな性分ですね。こういう人間だから嫁さんもらったら命がけになくては気が済まないし、これで子供が出来たら、裏口入門であろうと、人の子を殺しても自分の子供を可愛いがりますわな（笑）それが分るんです。自分でも、こんなのいかんと思ってとうとうイカズ後家で今までいました（笑）。映画の邪魔になると思いました。まあそれほどキザなもんではありませんが映画摑んだら離しません。

青木　そりゃ先生「昭和奇人伝」の一頁に！（笑）

淀川　入るかも知れませんが、一度だけ浮気しましたね私は映画キチガイでね、今だに映画の中の言葉が身に付

◀それは楽しいヨドチョウさんの語りです。

いて映画が私の人生勉強で、例えば「世界は脇に寄って道を開けてくれる。もしお前が本気で通るなら」という言葉があったら身にしみちゃうんですね。単純だから。他のことに気を取られると罪悪みたいなもんですが、一度だけ映画きちがいでなくなったことがあります。聚楽館に、アンナ・パブロアという世界最高のダンサーが来た時、十三歳で見たけれど目が参りましたね。見事でした……。その「瀕死の白鳥」ののきれいなこと、圧倒されましたね。入場料は十二円、今で、一万二千円位ですが子供ながら惜しくなかったですね。本を売って夢中で勉強しました。ダンサーになろうと思った。これは三ケ月の夢でしたがこれだけですね。私から映画の感激をむしり取ったのは。

青木　浮気だから実物が出てくるかと思ったのに（爆笑）。

淀川　残念、恥しいかな実物は出ず終いです（笑）でも私、映画のお陰で、あらゆる場合にユーモアとか人生とか愛とかを教えられましたね。すぐ感激してしまうんです。単純なんですね。つまらない映画なんて無いです。映画は本当に鏡ですね。例えば、フランス、アメリカ、イギリスで各々のタッチがあります。男を研究しようと思ったらイギリスものですね。男のかたまりで、表情が変らなくて恐いですね。アメリカは、やぼったいね。でも最近のアメリカは社会恐怖と結びついて神経衰弱になってピリピリしていて面白い。スエーデンの神の目から見ているからSEXもいやらしくないわね。フランスはエレガンスで滑稽ね。ブリジッド・バルドーの「軽蔑」っていう映画のムード。ムードを教えてくれるね。それに「赤い風船」ないかもフランス風タッチで、愛とか、夫婦とか、友情というものは、握っておかないと逃げるものじゃあない、離しても逃げるものじゃあない、実は結ばれている。これが友情、夫婦、愛なんだってことがエレガントにわかるのね。それを見ていると豊かになるのね。旦那が遅くても、映画をみていたら〝あら風船が帰ってきたわ〟と、それでいい訳れ（笑）

　映画というのは、いろんなことをかみしめて教えてくれるから、みごとに楽しいですね。一生懸命しゃべること、ベストを尽すこと、芸術とは美術とは何か、決して難しいことやない。一生懸命すると打ちます。相手を喜ばすために一生懸命になっている。それが美なのね。人は人間と書くように、生きている間は一生懸命人のために生きたらいいのね。人のために生きたら極楽、自分のために生きたら地獄、腹の立つことばっかりね。西洋人は、またユーモア精神を持っていて、これは人間勉強しないと、人を愛する精神を持たないと出てこないのね。

　私は、今、三つのスローガンを持っています。一つは、苦労よ来たれ！泣いた人には理解があって同情があるのね。自分も苦しかったから知っているの。始終苦労を持っていなくては駄目ね。

　第二は、他人歓迎。僕は一人者だから特にこの言葉が好きだけれど、他人を持たずに我仲間と思うのね。僕は映画から一番いい言葉を得た。「私はまだかって、嫌いな人に会ったことはない。」私は、そんな言葉を言って死ねたら最高だと思いますね。他人歓迎だと、どんなところでも、怖気づかないし抱きつくような気持ちで何でも言えます。ユーモアというのは、意地悪だけれどその人を抱きしめるんです。

　それから楽しみを持つこと。一日に一回でも、一週間に一度でもいいから楽しみを持つと、どんなに体にいいか、きれいになるか。僕は一人ものだから、いつぼっくりいくか、楽しみがなかったら、だから楽しみをこしらえていますね。

　でも本当に神戸はいいところですね。

〈北野クラブにて〉

マキシンの帽子のおもとめは
全国有名百貨店でどうぞ

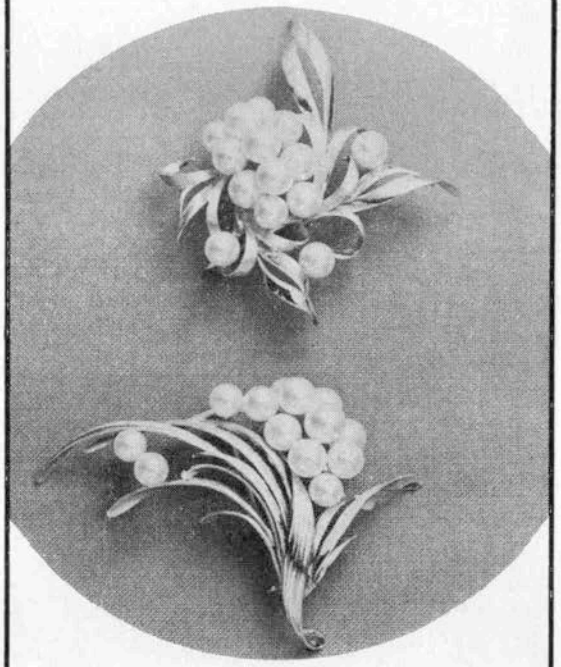
婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード　東京・銀座３－２
TEL(078)331-6711-3　TEL (03) 535-5041

そっと触れたくなる光沢で

愛を育てるキタムラパール…



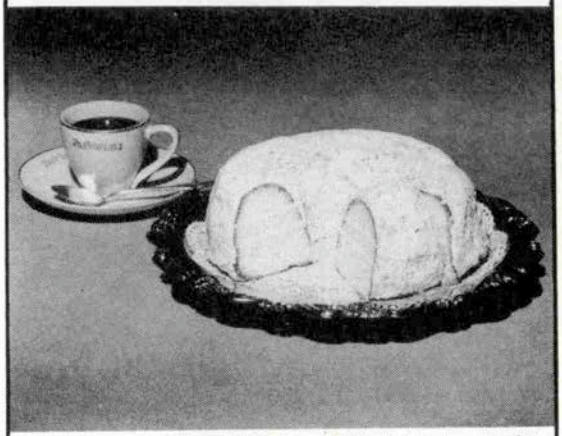
北村真珠店

元町通２丁目60　TEL. 331－0072

Frankfurter Kranz

《フランク・フルト市の冠》

またの名をフェルトサンドケーキ
冠のたとえのように　落ついた風格！
口どけの良いソフトな甘味
フレッシュバターが譲しだす
風味は名実ともに
ケーキの王様の冠にぴったり……！



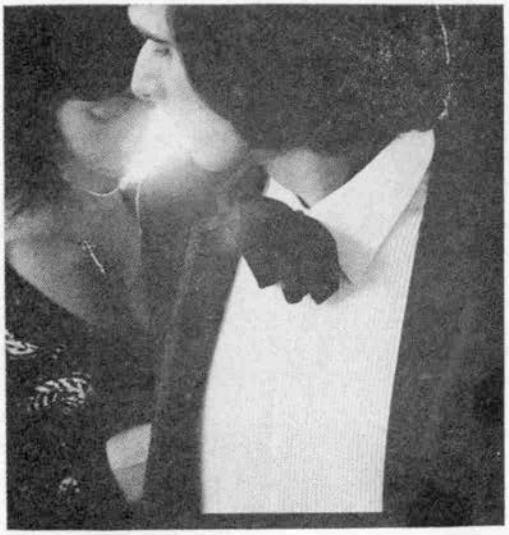
全日空機内食にも指定されたケーキです

¥ 400～¥ 1,000

ドイツ菓子
Fachheim's
ユーハイム

本　店　三宮生田神社前　TEL (331) 1694
三宮店　三宮大丸前旧市電筋　TEL (331) 2101
さんちか店　さんちかスウィーツタウン　TEL (391) 3539
心斉橋店　心斉橋筋大丸前　TEL 06(252)0925

華かな日を飾るシックな
ダンディズムはこころよいもの



よろず御機衣縫上処

神戸シヤツ

神戸店ー神　戸　大　丸　前　331－2168
東京店ー東急・日本橋店1階　211－0511内線219
東急・渋谷本店4階　462－3433
広島店ー広　島・福　屋　1　階　47－6111　内線440

★技術ジャーナル ㊻

レール

諸岡博熊
〈阪神外貿埠頭公団工務部長〉

英国の炭坑で石炭馬車用に二枚の板を道路に埋めてその上を走ったことがレールの生いたちの初めといわれる。その後、板に鋳鉄板を張ったりしていたが、一八二五年、世界最初の鉄道が英国のストックトンとダーリントン間に開通し、現在のレールの原型にほぼ近い鋳鉄製魚腹形レールが出現した。一八五六年ベッセマー製鋼法の発明の結果、鋼材が廉価かつ大量生産可能となり、一八六四年英国につづいて、一八六五年米国でも鋼製レールが製造され始めた。

わが国では、明治三十四年（一九〇一年）官営八幡製鉄所で平炉法で製造された。現在は純酸素転炉製と塩基性平炉製の二種類があり、前者にLD、後者にOHのマークがレール腹部にマークされてある。

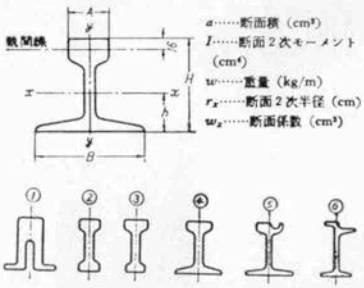
× × ×

レールは直接車両の重量を受けその荷重を枕木に伝える役目をする。そのため ①すわりよくその上枕木への据えつけが容易であること ②摩耗する率が少なくかつ、少し位摩耗しても使用に耐えること ③同じ目方の鋼材に比べ最も強い断面を持っていること ④製造しやすいことなどの条件をみたすレール形状が要求される。したがって、各用途別に断面形状が出来上る。図はその一例を並べたもので、①橋レール ②双頭レール ③牛頭レール ④平底レール ⑤みぞ付きレール ⑥段付きレールとよばれる。日本での初期の鉄道は双頭レールであったが、逐次平底レールに替った。路面電車用としてみぞ付きレールと段付きレールは現在も使用されている。

× × ×

レールの種類に対しその呼び名は一メートル当りの重量をもってあらわす。たとえば、五十キロ・レールとは長さ一メートルあたりの重量が約五〇キログラムである。その主要寸法は表のとおりJRS（国鉄標準規格）JIS規格で定められている。

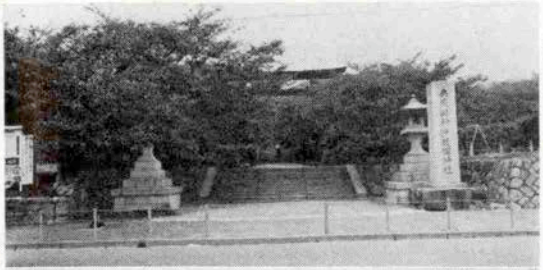
三〇キロ、三十七キロ、五十キロレールは米国の鉄道レール規格断面を採用したもので古くから使用されている。また、五十キロN、四十キロNレールは国鉄が昭和三十七年から設計したもの。さらに、五十キロTレールは東海道新幹線用に、六十キロレールは山陽新幹線用として新たに設計されたものである。



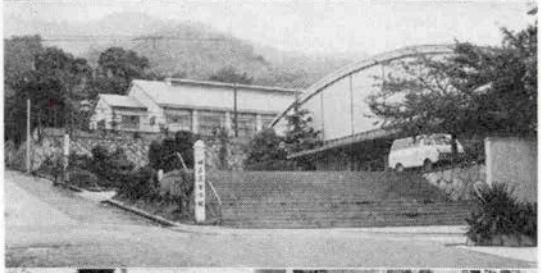
	JRS 01111-1	JRS 01106-1	JIS 1101 (1963)					JIS 1103 (1963)					
	60 kg	50T	50N	50	40N	37	30	15	12	10	9	6	22
頭幅（A）	65	65	65.00	67.87	64.00	62.71	60.33	42.86	38.10	34.13	32.10	25.40	50.80
底幅（B）	145	136	127.00	127.00	122.00	122.24	107.95	79.37	69.85	66.67	63.50	50.80	93.66
全高（H）	174	160	153.00	144.46	140.00	122.24	107.95	79.37	69.85	65.67	63.50	50.80	93.66
重心距離（-h）	77.8	72.23	71.56	68.80	68.86	58.40	52.10	38.92	34.03	32.16	30.87	24.34	45.20
断面積（-a）	77.5	67.95	64.29	64.30	52.20	47.30	38.30	19.30	15.80	12.60	11.40	7.60	28.40
重量（w）	60.8	53.3	50.40	50.40	40.98	37.16	30.08	15.17	12.17	10.08	8.94	5.96	22.30
断面2次モーメント（I_{x-x}）	3 090	2 279	1 963	1 740	1 378	952	606	156.1	98.8	67.1	62.4	31.0	339.0
断面2次モーメント（I_{y-y}）	512	380	322	378	230	242	158						
断面2次半径（r_x）	5.93	—	5.52	5.20	5.14	4.49	3.98	2.83	2.51	2.30	2.33	2.02	3.45
断面係数（w_x）	303.0	311.2	273.9	225.0	200.1	149.0	108.0	38.6	27.6	19.4	19.1	11.7	69.6

神戸のアーバンデザイン
山麓のバスルート都市軸 ⑰

水谷穎介＋チーム・UR



護国神社は子供の遊び場



神戸高校

市立南蛮美術館

六甲―三ノ宮バスルート都市軸図

●**朝霧と西明石**を結ぶバスルートによって新しい都市軸をつくっていこうという提案を先月しましたが、その見本ともいうべきバスルート都市軸として、三宮～六甲をつなぐ山麓線があります。

●**神戸の山手**のおだやかな住宅地の中に、バスルートに沿って、神社・学校・美術館・公園といった緑地文化施設や八百屋・タバコ屋医院・クリーニング店といった生活関連施設が並んで、周囲にひろがる住宅地の人たちに利用されています。最近では、1階にお店のあるマンションなどもふえています。

●**この三宮～六甲**をつなぐ山麓バスルート都市軸の主役は、学校を中心とした文教施設で、朝夕ともなれば、阪急六甲と三宮駅の両方のターミナルを利用する高校生・短大生でにぎわい、赤字に悩む市バスも、このルートはそんなこともなさそうです。バスルートの両端にターミナルをもち、中央に需要の中心があり、往復利用可能な振子型パターンの典型だからでしょう。

●**ちょっとバス**に乗って、護国神社へお花見に、王子動物園へ、南蛮美術館へ屏風絵を見にと、街の中で生活していく豊かさを支えているのが、山麓文化軸とでもいうべきこのバスルート都市軸です。緑の環境豊かで、静かな街というだけではない六甲山麓の街の良さを、新しく造っていく開発市街地にも生かしていく必要があるのです。

（小林郁雄）

神戸のモダーンリビング ⑥⑦

路地Ⅲ　苅藻地区の地蔵盆

水谷穎介＋チーム・UR

★路地が最も華やかに飾られ、晴やかな表舞台になるのが、地蔵盆の日です。その日は、路地の隅っこで、路地を見守っていたお地蔵さんが、主役となる日です。

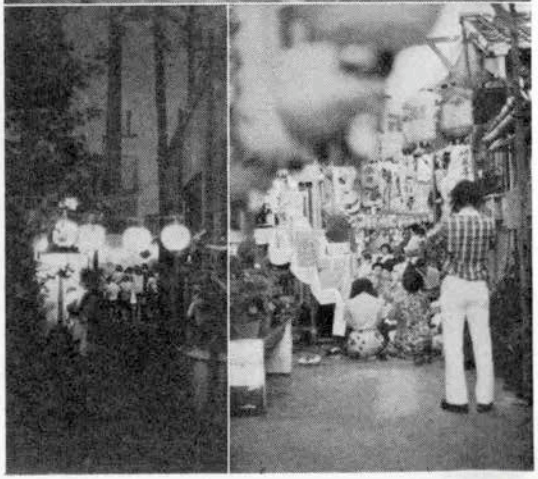
★子供たちの健やかな成長を願う地蔵盆は、お盆が終るころの年中行事で、子供たちにとっても、夏休みの終りをつげるフィナーレの祭典といっていいでしょう。どのお地蔵さんもこの日は盛大にかざられ、その前に子どもは列をつくり、順番にそのちっちゃな手をさし出すと、ひとつかみづつの駄菓子がその上にのせられる。それを大きなビニールの袋に入れてまた次のお地蔵さんへ、そうして十数軒もいくうちにビニール袋はいろいろな駄菓子でいっぱいになり、夏の終りの2・3日をその駄菓子片手に遊ぶのです。

★どんな小さな粗末なお地蔵さんも、手入れはいつもゆきとどいていて、ちゃんと花や線香があげられています。これは大きな工場を除いて、ほとんどの住民がどれかのお地蔵さんの守役になっていて、日ごろの世話や、地蔵盆のさいの費用や供物を出すようになっているからですか、誰がどのようにしてお地蔵さんを立てたかほとんど誰も知らないし、維持の規模・形態も時代とともに様々に変化してきたのでしょうが、地蔵盆という行事は今でも根強く、それぞれの街の路地に年中行事としてくり返されているのです。

（小林郁雄・ルポ／合田康代）

ハレの日を待つ路地

順番にお菓子もらって次のお地蔵さんへ



夜ともなれば灯がともり路地いっぱいのお供え

経済ポケット ジャーナル

★第二回神戸市民会議開催

国際港都神戸の〝人間環境都市〟の実現を目ざして神戸市民協議会（藤本勝也議長、神戸商工貿易センタービル内）は九月三日、生田区の県歯科医師会館で第二回神戸市民会議を開いた。

会場には同会メンバーの一般市民はじめ、市、県の行政代表者、神戸青年会議所の企業代表者ら約百二十人が参加、〝人間都市〟への課題につき、それぞれの立場から基調報告。続いて午後からの分科会で「市民合意のルールをさぐる」「神戸の明日を開く」など三つのテーマについて討議。日照権などのマンション公害、産業廃棄物問題、ポートアイランドの利用計画などをめぐって〝人間都市〟のあり方を話し合った。

最後に参加者の決意を表わす宣言を出し「人間としての社会的責任をもち、人権と平和を守りましょう」など五項目の神戸市民憲章を採択した。

市民会議会場風景

★婦人既製服メーカー〝ジャヴァ〟の新社屋完成

婦人既製服メーカーのジャヴァ（細川数夫社長）が建設を進めていた本社新社屋ビルがこの秋、神戸商工貿易センタービルのすぐ北側に完成、九月一日より営業を開始した。

同社は葦合区上筒井通に本社を置き、四十年に設立〝JAVA〟ブランドの若い女性向きファッションを中心に〝BeBe〟ブランドの子供服で着実に伸びてきた。

新社屋は地上五階、地下一階延べ約二千平方㍍で、工費約二億円。

二階以上が本社となっており、一階には直営のブティック、地下には直営の喫茶店〝J&B〟がある。

所在地　神戸市葦合区磯辺通三丁目十の二

TEL　二五一―八二八二

JAVA の新社屋ビル

★神紀フェリーが神戸―白浜間に配船

神紀フェリー（園田勇社長）が八月末から新設フェリー「紀州」「白浜」（二三〇〇㌧）を配船。乗用車百台と旅客八百人を乗せて神戸白浜間を一日二往復、四時間五〇分で結ぶ。

船内にはレストラン、ティールームなどのゆったりとしたカラフルな設備もあり、快適な船旅が楽しめる旅客運賃片道千円（二等）

就航した新鋭フェリー

★KOBE オフィスレディ★

北村香世子さん（23歳）
神戸テレフォン・サービス株式会社

全く面識がない不特定多数の人々のさまざまな情報を微細なニュアンスまで曲げずに伝えるという重要な仕事が情報時代を支える電話秘書。

これをこなす北村さんは高校時代に演劇部にいた、音楽好きで爽やかな声の持主。写真ではわからないけど、プロポーションもイイのです。

株式会社美容室 **エリザベス**

本店　三宮神社山側三上ビル2F　TEL 331−8894・4917
芦屋支店　芦屋市阪神芦屋駅前　TEL 0797−22−4067
西宮店　西宮市阪急西宮マンション北館1F　TEL 0798-67-1294

お貸衣裳 **花嫁衣裳サロン**

畑尾美久子の店　生田神社前　TEL 331−3258
美容担当（東京初代 遠藤波津子直流）
専属結婚式場　生田神社・オリエンタルホテル
阪急六甲山ホテル・住吉学園・蘇州園他

幸せな二人の
縁を結ぶ
結納儀式用品

結納儀式用品

遠藤福寿堂

神戸大丸姫路やまとやしき
そごう神戸店　姫路山陽百貨店
東店　トア・ロード那寿2階　TEL (391) 1871～3
西店　長田区市バス菅原東入る　TEL (575)2251～3

潜り戸を通って
“花„のおふくろさんの味を

和風季節料理　花

さんプラザ地階　ＴＥＬ331―0087

営業時間　AM11：00～PM9：00

ロマンチックなメリケン波止場
ノッポでおしゃれなポートタワー
ポォーと汽笛を響かせる真白な船
みどり濃い六甲の山をバックに
美しく展がるエキゾチックな
コウベの港
突堤をかたちどった
コウベの街のしゃれたチョコ
コウベピアー
サクッと感じる若いチョコ
コウベピアー

神戸にそだって75年

風月堂

元町３丁目　TEL391-2412～5

さんちかスイーツタウン TEL391-3455

☆座談会——神戸のアーチストが語る

神戸に美術研究所を

□出席者

新谷秀雄〈彫刻家・二紀会・武庫川女子大学教授〉
津高和一〈画家・大阪芸術大学教授〉
中西　勝〈画家・二紀会・神戸学院大学教授〉

★神戸にぜひほしい美術研究所

——文化都市神戸に美術研究所が一つもないというのははなはだ残念なことなんですが、今日はひとつ、この美術研究所の設立にスポットをあててお話をお伺いしたいのですが。

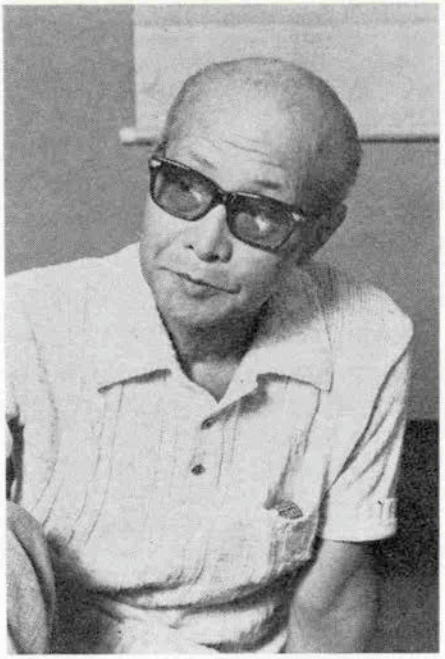
新谷　最近は遅まきながら大学、短大で美術学科などが設けられ、美術も盛んになってきたようですね。民間の研究所のようなものは、洋画では「六甲洋画研究所」のようなものがありましたし、「神戸洋画研究所」といったものも戦前から続いている歴史の古いものです。洋画専門の研究所というのは神戸にもあるんですが、総合的な研究所はまだありませんね。阪神間にはぜひこういった研究所はほしいものです。どこにどういうシステムで作るというのはこれからの課題になりますが何とか実現したいものです。

中西　今、公害とか環境保全とかいろいろいわれていますので、そういう意味からいっても美術研究所とか美術大学といったものを神戸にもつくらないといけない状態になってきてると思うんです。

　ヨーロッパでもいろんな研究所があって、その研究所を出ただけでも相当の資格があるという、非常に充実したものをもっていますね。

　僕の経験では終戦後大阪の難波に研究所ができて、ゆくゆくは美術学校になる予定でした。それが今の美術館の下の研究所と、工芸学校の中に油絵科ができて、生徒の資格のあるものは工芸学校の方へ行って、ないものは研究所の方へ行ったということがあったわけです。それにしてもそこには日本画と洋画と彫刻がありましたね。

　融紅蘭さんなんかが日本画で、ラジオで大きな声で身上相談なんかやってました。(笑)上田堯先生とか安田竜門先生が彫刻の方で教えておられました。絵の方では小磯良平、須田国太郎、鍋井克之、田村孝之助先生なんかが教えておられました。その頃私はそこへ入ったんです。というのは武蔵野美大は籍があったんですが遠すぎて行きにくかったし、めんどくさいからこの研究所へいっとこかいな、いう気持で行ってたんです。そのあと神戸の研究所へきたんです。それは別として研究所時代の生活というのは、日本画の人もいるし、彫刻の人もいるしで横のつながりがあって洋画だけということでなしにいろんな分野の人との対話の時間もあって大変楽しかったですね。ですから総合的な美術研究所というのはぜひつくらないといけないですね。この前も牛尾さんが「環境美術大学みたいなものをつくりたいなあ」っておっし



新谷　秀雄氏

ういう所を出てますね。だからそういった研究所は文化というものに非常に寄与しています。

中西　ついうっかり、僕達でも学歴書く時にあれだけ一生懸命やった研究所を書き忘れることがあるんです。(笑)

津高　忘れますね。(笑)

中西　忘れないようないい研究所であった方がいいと思うんですが。(笑)

東京には美術家会館というのがあって、あそこで優秀な講師をよんで講演会もあるし、美術館でも毎週三回ぐらい講演会があります。美術に関する大学はたくさんあるし、大学の中でも美術科はしっかりしてる。それに研究所はまた立派なのがたくさんある。さらに大学を受けるための予備校も多いし、個人の研究所もいいのがある。それにひきかえ、神戸にはほとんど何もないといっていい。最近新谷先生の所にいいのができましたのでこれからどんどんよくなっていくと期待しています。

新谷　この前、彫刻家連盟から写真集送ってきたんですが、それをみてみましても研究所というのは本当に少ないですね。

中西　昔は安井曽太郎とか梅原龍三郎が出た時分はある程度あったんだけど、今はもう予備校みたいになってしまってる。

津高　そうですね。

中西　神戸にひとつぐらいいい美術研究所をつくらんともう格好悪いですわ。(笑)経済ばっかり暴走してしまって……。博物館一つないような街なんて知りません。

津高　そういう文化的な仕事というものに政治家も関心が薄いでしょ。薄かったわけですよ。ということは、文化というものがどこで経済にプラスするのかという意識が強かったんです。それも大切なことですが、文化をマ

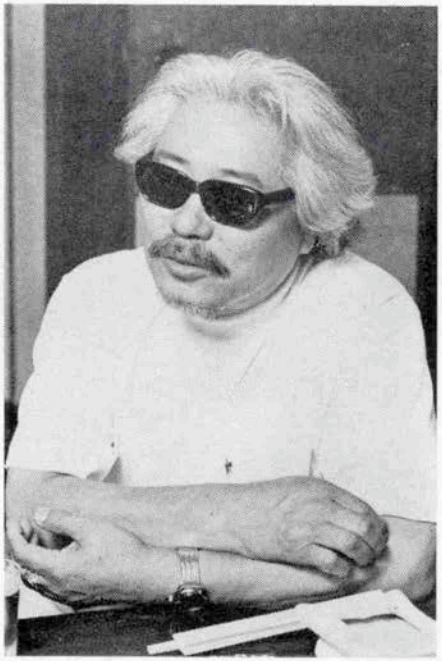
ゃってましたし、宮崎市長も「中西君、研究所みたいなものがあってもいいと思いませんか」といっておられました。

今現在美術館の中に研究所がありますね。それから婦人会館の中に市の研究所があって超満員です。入りきれないほどです。それと美専堂の中にもありますね。ですからこれからつくるのだったらがっちりとした総合的な研究所、しかも環境と関連のあるようなものを。余裕があれば建築なんかも入っていい。

津高　僕は昔の二科系の中ノ島洋画研究所の出身なんです。今の「行動」やら「二紀」に分裂する前ですから、講師は鍋井克之とか黒田重太郎、田村さんとか国枝金蔵、古谷新だとか小出卓二などの二科に在籍していた人達です。中ノ島洋画研究所というのは昔小出楢重さんなんかのやっていた信濃橋洋画研究所の後身です。そういうものは学校にはいかないで美術というものを何とか修得したいという人達が行ったもんです。心斎橋にあった「赤松洋画研究所」もそうじゃないですか。

中西　ああ、ありましたね。

津高　大阪の古い人達で美術学校を出なかった人達はそ



津高　和一氏

新谷　僕が思うには、日本では学校というのは肩書きをつくるだけのものであって、実際に役に立つかどうかは疑問だと思うんだよね。それから毎年何十人か芸大を出ても作家として残るのは何割かでしょ。「どうして美術学校選んだの」って聞と「入学のパーセンテージが一番低いから」っていう。単に「大学卒」っていう肩書きをもらうためにすぎないんだよね。だから研究所というのも、本当の作家を育てるためのものと、美術を愛する市民一般のものと両方の機能を備えていていいと思いますね。

ちょっと飛躍した考え方かもしれないけれど、絵画部とか彫刻部とかそういう区分で科目を別にしないで総合的な知識を育てるという意味で「造形」という言葉を使いたいね。造形全般の教育をするということの中に、立体があり平面があり応用芸術ありといったふうでおもしろいと思うね。先生方も学生や受講者の層も一体になって作ったカリキュラムのなかでセミナーをもつというようなことをやると、とても反響があると思いますね。

中西　建築なんかそうですね。絵画とか彫刻とか密接な関係がありますから。

津高　大阪芸術大学でも、たとえば津高ゼミなら津高ゼミで登録してますが、そこへ出て他にどこへも行かないというのではおもしろくないと思うんです。彫刻、デザイン、工芸、陶芸などいろんなものがあるんですからそういうものの中でお互いに交流しなければいけないんじゃないかと思うんです。そうすると今まで技術指導みたいなものばかりで一つのジャンルの中に閉じこもっていたのですが、これからはもうそれではダメだと思うんですね。バウハウスの例もそうでしょ。新しいことをやるとか形式的なことは抜きにして、お互いに受けあうとか与えあうとかディスカッションをしあうとなると大変お

イナス面でばかり考えずに、プラスの面で考える余地というものはいっぱいあると思いますがね。

中西　パリじゃないけど、街全体に美術のムードが漂うためにはやはり、ちゃんとした学校がないとね。今のままではバラバラですから。

パリなんかでは洋品店でもどこでも展覧会のポスターが貼ってありますね。日本では一生懸命頭下げて貼らしてもらわないといけないんですが、向こうでは自慢みたいにして貼ってます。いい店ほど。

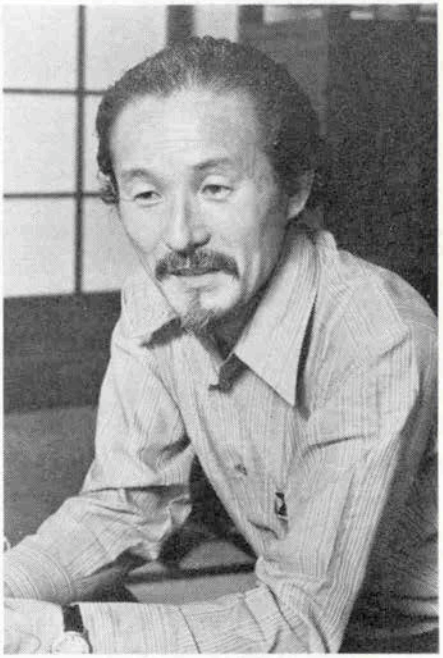
津高　そうですね。またポスター自体も貼りたくなるような美術的なきれいなものですしね。

パリのサント・ノーレの割合高級品を扱ってる店舗でも一枚ガラスの入口にパッと貼ってありますよ。

中西　日本だったら、ポスターを貼ったりすると中の品物が見えないからといって貼らしてくれないでしょ。

新谷　それはやはり魅力のあるポスターだから貼らしてくれるんでしょうね。

★多様なジャンルの横の連絡を



中西　勝氏

専門家を育成するのなら専門コースという形をとるわけですから、指導者にしても力が入るでしょう。

しかし、単に趣味として、あるいは教養として美術を勉強したいという人もあるでしょうし、学校と違って高等学校から入るというように年令の制限がなくなるとすれば奥様方でも中年で習いたいといった人も増えてくるでしょう。ですから専門家の養成と趣味で習う人とは分けないといけなくなってくるでしょうね。もっともこれは美術研究所ができあがってからの問題でしょうが。

津高　研究所をつくるとなると、経営ということももちろん考えておかねばなりませんので、それも考えておく必要がありますね。いいことづくめの夢物語りで、経営が成り立たないということでは困りますから。

★アルチザンをもっと大切に

新谷　神戸に美術研究所ができたらいろんな学校を出て、ここで仕上げをするというぐらいの気持で勉強してほしいですね。

津高　僕らでもよく学生にいうんですが「ここを卒業して、作家としてのスタートラインについたと思ったらもってのほかだ。海のものとも山のものともわからない状態で放り出されるんだから、ここからが出発なんだよ」ってね。

中西　僕らでもヨーロッパへ行ったら「一からやりなおしや」いうて研究所へ行きますからね。(笑)

それから、たくさん美術学校ができ、研究所ができるという中で、ポツンと一つあれは最高だというぐらいのぜいたくなものがないとだめだと思いますね。

もしろいと思うんです。

今までの芸大の学生が登録して単位だけとったらあとはバイトをやってて学校に来ないというのは、一つには入ってみたら何だこれかという期待はずれと共に、組織が大きいことによる空虚感があると思うんです。ですから研究所をつくるのならば、マンモス化した大学とは違って、人間と人間が密着できるような形をとった方がより魅力がでてくるんじゃないかと思います。組織が大きすぎると、極端にいえば通信教育みたいになってしまう恐れもありますしね。そうなれば芸術との触れあいも出てきません。

新谷　指導をする側にしても、過去から今までは専門家を育成するという一つのたてまえでやってきたわけです。ところが美術学校の学生にしても、入ったから何となくやってるといった状態なんで、卒業したら何もしない。だから教える方もセがないといってる私の知人の教師もいますが、ただ、趣味とか美術を通して人間の育成とか、そういう美しいたてまえで割りきってするか、あるいは専門家を育成するかのどちらかにはっきりと区分する必要があると考えてみたりもしますね。

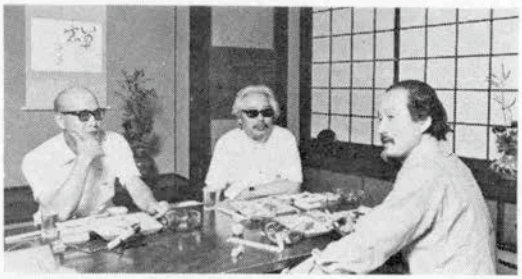
今ペンテルとかサクラクレパスがすごくがんばってて日本の子供の絵の好きな人口というのはおそらく世界一だと思いますが、高学年になるほど絵から遠ざかってしまうんですね。ヨーロッパでは絵の好きな人は部屋の中に何枚も絵をかけて楽しんでますし、そういう人は大変多い。おばあさんでキャンバスをもって歩いている人も時々目につきますが、日本ではおばあさんがキャンバスもって歩いてるなんて光景はちょっとない。(笑)

絵の好き人口がもっとどんどんひろがるように、僕は美術研究所や学校がいっぱい増えて、もっと湧かんといけないと思いますね。

新谷　私の娘が二人ともこちらの美術学校を卒業してアメリカに行ってるのですが、それでも学校では最年少者だったといわれていますね。そこの美術学校では年に一回、「アート・ショウ」いわばバザーがあって作品の即売会を催すんですが、それにみなわんさと買いに押しかけてくるそうです。そして奨学金もでますので、学生にしても熱が入るのでしょう。もし、日本でするとしたらああいうシステムもほしいですね。

今の日本では生徒の作品に値段をつけて売るなんてことはとても考えられないですが、向こうではこの時期になるとみな大変エキサイトせざるを得ないわけです。

中西　僕がアメリカのグリニッチ・ビレッヂに行った時ハンサムな青年が一生懸命靴をつくってるのを見たんです。日本だとどうかすると、下駄屋とか靴屋とかいうと軽蔑される恐れもあるんですが、「創るものはみんないいものだ」というぐらいの心の広さと深さと温かさをもってほしいものです。「何だ服屋か」というような気持は非常にいけないです。



「神戸にぜひ美術研究所を」と、左から新谷、津高、中西さん

新谷　一つの物に長い時間と情熱をかけてコツコツと作る喜こびといったものが次第に忘れられかけてますからね。もっとアルチザンを大切にしないといつの世にも残る良い作品は生まれないと思います。

津高　たしかに一つのものに徹するということが少なくなりましたね。

この前アメリカの美術大学の学生がサマーゼミナールで日本に来たのですが、僕のゼミナールに入ったのが20才の青年と、45才のおばあちゃん、48才のおばあちゃんなんです。

学生といえば若いものと思ってましたらこんなお年寄りもいっしょになって勉強してるんですね。おもしろいと思いました。日本だとこんなに年をとってから学校へ行って絵の勉強をするというようなことはちょっとないですよ。

中西　この間、柏原の公民館で公募展があって見にいったら、60才をすぎた出品者がかなりあったですね。ああいう田舎になると文人画家みたいにおじいさんになると絵を描く人がかなりあるみたいですね。

もう一つは信州に栗原信さんが開拓したといいますが、田舎で村全部が絵が好きだという部落があるそうです。

二紀会の人が行くとね、今晩はうちに泊ってくれといって絵描きのとりあいになるそうです。(笑)そしてあちこちに分れて泊ると、村の人達が集ってきてその先生を中心にして絵の話をきくそうです。

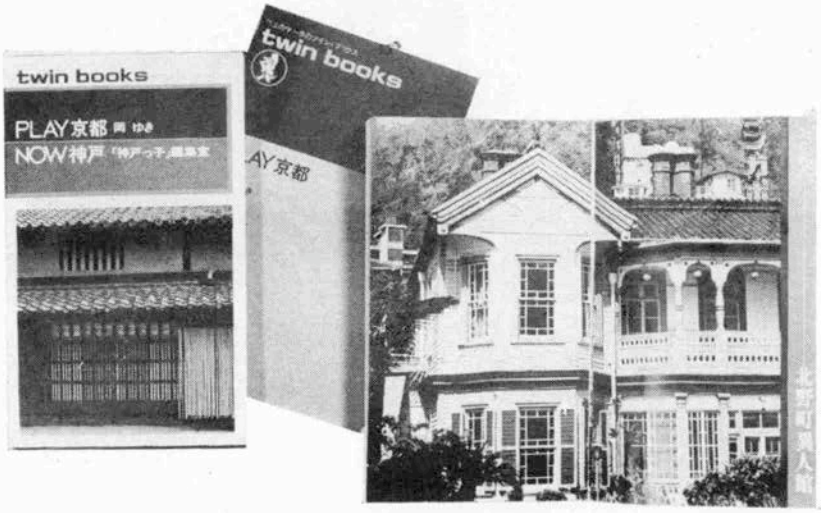
津高　それは珍しいですね。誰か火つけがいるとそうなるんですね。

神戸にもいい美術研究所が早くできて、市民の一人でも多くが芸術に関心をもつようになってくれれば嬉しいですね。

〈竹葉亭にて〉

BUY NOW神戸
PLAY京都

●ワニのマークのツイン・ブックス……850えん



●好評発売中　　お近くの本屋さんへどうぞ！